

検査結果の見方

身体計測	標準体重	この体重の時、病気になる確率が最も低い。(理想体重)
	BMI	肥満の判定に用いる体格指数。25以上が「肥満」、18.5未満が「やせ」です。
	肥満度	身長と体重より調べます。10%以上が「肥満」、-10%が「やせ」です。
	体脂肪率	体重に占める脂肪の割合を表します。
	腹囲	おへその高さで測定し、男性85cm・女性90cm以上の人は、内臓脂肪がたまりすぎ(メタボリックシンドローム)を疑う必要があります。
血圧	収縮期血圧130mmHg以上または、拡張期血圧85mmHg以上で「高血圧」と判定された場合は、自覚症状が無くとも内科を受診しましょう。	
視力検査	裸眼もしくは矯正視力(眼鏡、コンタクトレンズ使用)で測定します。	
眼圧検査	眼精疲労や緑内障の診断に関する検査です。高値の場合、緑内障・高血圧・糖尿病などが疑われます。最近は眼圧が正常範囲でも緑内障と診断されるケースが多くなっています。	
眼底検査	眼底の血管・視神経などを観察し、動脈硬化・高血圧・糖尿病等の変化の有無を調べます。	
聴力検査	1000Hz(人の声)・4000Hz(電話のベル)程の音が聞こえるか調べます。	
糖代謝検査	HbA1c	過去1~2ヶ月間の血糖状態がわかります。
	空腹時血糖	高値で糖尿病が疑われます。食事の影響をうけるので空腹時に調べます。
	尿糖	陽性のときは糖尿病が疑われます。
肝機能検査	総蛋白	低値で栄養不良・肝臓病、高値で膠原病が疑われます。
	A/G比	血液中の蛋白質の主なものアルブミン(A)とグロブリン(G)です。その比は肝炎の状態の目安になることがあります。
	総ビリルビン	高値で肝炎・肝硬変・胆道の病気が疑われます。極端な高値では黄疸が疑われます。
	TTT	高値で慢性肝炎・肝硬変・膠原病が疑われます。γ-グロブリンが高いと肝疾患以外でも高値を示します。
	ZTT	高値で慢性肝炎・肝硬変・膠原病が疑われます。γ-グロブリンが高いと肝疾患以外でも高値を示します。
	AST(GOT)	高値でまず、肝臓病が疑われます。AST(GOT)は他に心筋障害・筋肉疾患でも高値を示します。
	ALT(GPT)	高値でまず、肝臓病が疑われます。AST(GOT)は他に心筋障害・筋肉疾患でも高値を示します。
	LDH	高値で肝臓病・心筋梗塞・筋肉の障害などが疑われます。
	γ-GTP	高値で肝臓病・胆道の病気が疑われます。アルコール性肝障害、脂肪肝のときによく上昇します。
	ALP	高値で肝機能の低下・胆汁うっ滞が疑われます。骨疾患でも高くなる場合があります。
	コリンエステラーゼ	低値で肝硬変・劇症肝炎・栄養不良、高値で脂肪肝が疑われます。
CPK	高値で心筋梗塞などが疑われます。	
脂質検査	中性脂肪	高値で食べすぎ、アルコールの飲み過ぎが疑われます。
	総コレステロール	高値で心筋梗塞・脳梗塞といった動脈硬化による病気が起こりやすくなります。
	LDLコレステロール	高値で心筋梗塞・脳梗塞といった動脈硬化による病気が起こりやすくなります。
HDLコレステロール	低値で心筋梗塞・脳梗塞といった動脈硬化による病気が起こりやすくなります。	
膵機能検査	血清アミラーゼ	高値で急性・慢性膵炎が疑われます。耳下腺炎等の唾液腺の炎症でも高くなります。
痛風検査	尿酸	高値で痛風・動脈硬化による病気が起こりやすくなります。
血液一般	白血球	細菌感染や炎症があると増加し、免疫力が低下している時減少します。
	赤血球	貧血を調べます。基準値より低い場合は貧血を、高い場合赤血球増多症が疑われます。
	色素量	貧血を調べます。基準値より低い場合は貧血を、高い場合赤血球増多症が疑われます。
	ヘマトクリット	貧血を調べます。基準値より低い場合は貧血を、高い場合赤血球増多症が疑われます。
	M C V	貧血の種類を鑑別に使います。赤血球1個の平均容積量です。赤血球の大きさの指標となるものです。低値では鉄欠乏の可能性がります。
	M C H	貧血の種類を鑑別に使います。赤血球1個に含まれる平均色素量です。
	M C H C	貧血の種類を鑑別に使います。赤血球の一定容積に対する色素濃度です。
血小板数	血液を凝固させる働きがあり、減少すると出血しやすくなります。また多すぎれば血栓ができやすくなります。	

血液一般	血清鉄	鉄欠乏性貧血の診断などに用います。	で増加	血液中の白血球の種類は健康な状態では、ほぼ一定の割合で構成されるので、その割合の変化から病気を推測できます。
	TIBC			
	好中球			
	好酸球			
	好塩基球			
	単球			
	リンパ球			
尿検査	尿比重	尿中の成分や体内の水分量に影響を受けます。腎機能不全などで低くなり、糖尿病・ネフローゼなどで高くなります。		
	蛋白	腎炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群などで陽性になります。激しい運動後やストレス、女性では、月経時に陽性になることがあります。		
	尿糖	陽性のときは糖尿病を疑います。確定診断には血液検査が必要です。		
	ウロビリノーゲン	陽性のときは肝障害を疑います。		
	潜血	陽性の時は、腎・尿管・膀胱の異常が疑われます。		
	尿沈渣	尿中の細胞成分などを調べて、腎・膀胱の異常を調べます。		
腎機能検査	尿素窒素(BUN)	蛋白質の分解産物で腎機能の指標です。腎機能障害があると増加します。		
	クレアチニン	蛋白質摂取の影響を受けない腎機能の指標。腎機能に障害があると増加します。		
血清学	CRP	陽性のときは、体内に炎症や組織破壊のある病気があることが疑われます。		
	RA(リウマチ因子)	慢性関節リウマチ・膠原病・結核などの疾患があると陽性を示すことがあります。		
	ASLO	急性腎炎やリウマチ熱の原因となる溶血性連鎖球菌に感染している可能性を調べます。		
	STS(TPR)	陽性のときは梅毒に感染していることが考えられます。過去の感染でも陽性になります。		
	TP抗体(RPR)	膠原病・ウイルス感染症・結核・肝臓病で陽性になることがあります。		
肝炎ウイルス	HBs抗原	陽性のときは、B型肝炎ウイルスに感染していることが考えられます。		
	HBs抗体	陽性のときは、過去に感染したB型肝炎ウイルスが排除されたことが考えられます。		
	HCV抗体	陽性のときは、C型肝炎ウイルスの現在あるいは過去の感染が考えられます。		
便潜血反応検査	消化管(特に大腸・肛門)からの出血を調べます。消化管の潰瘍や癌の発見に役立ちます。			
血沈検査	高値で、体内に炎症があることが疑われます。貧血などでも高値を示します。			
腫瘍マーカー	PSA	高値で、前立腺癌が疑われます。前立腺肥大でも上昇します。		
	AFP	高値で、肝臓癌が疑われます。肝炎や肝硬変でも上昇します。		
	CEA	高値で、大腸癌・胃癌・肺癌・乳癌などが疑われます。		
	CA-19-9	高値で、膵臓癌・胆道癌・胃癌・大腸癌などが疑われます。		
	CA125	高値で、卵巣癌・胆道癌・胃癌・大腸癌などが疑われます。		
	SCC抗原	高値で、食道・子宮・肺・尿路・性器・皮フなどの扁平上皮癌が疑われます。		
	TPA	臓器特異性が低く、さまざまな癌において高値となります。		
	エラスターゼ	高値で、膵臓癌などが疑われます。膵炎でも上昇します。		
	NSE	高値で、神経内分泌腫瘍・肺癌・膵臓癌などが疑われます。		
	SLX	高値で、肺癌・卵巣癌・膵臓癌などが疑われます。		
	抗p53抗体	大腸癌・食道癌・乳癌・肺癌などで、比較的早期の癌の発見にも有効とされます。		
	シフラ	肺癌、とくに扁平上皮肺癌で高値を示しますが、肺腺癌や他臓器の癌でも高値を示すことがあります。		
	proGRP	高値で、肺癌のうち10~15%を占める小細胞癌などの神経内分泌癌が疑われます。		
ST439	高値で、膵臓癌・肝臓癌・胆嚢癌・大腸癌・子宮癌・乳癌・胃癌などが疑われます。			
肺疾患マーカー	KL-6	間質性肺炎に対する肺疾患マーカーです。胸部X線写真あるいは胸部CT所見と合わせて評価することで間質性肺炎の診断価値が上がります。		

* 腫瘍マーカーの多くは正常者でも体内で合成されています。従って高値が必ずしも癌の存在を示すものではありません。間隔をあけて測定し、明確な上昇傾向がある時には精密検査を受けて下さい。

甲状腺	TSH	甲状腺ホルモンの分泌を促進する脳下垂体から分泌されるホルモンです。高値の場合甲状腺機能低下症、低値の場合甲状腺機能亢進症の疑いがあります。
	FT3	甲状腺から分泌されるホルモンで、高値の場合甲状腺機能亢進症、低値の場合甲状腺機能低下症の疑いがあります。
	FT4	
肺機能検査		肺の「換気機能」(空気の出し入れがうまくできているかどうか)を調べます。COPD(慢性閉塞性肺疾患)の発見・診断に必要な検査です。
胸部 X 線検査		肺や心臓の異常を調べます。肺炎・肺結核・肺腫瘍及び心不全の診断に役立ちます。
心疾患 マーカー	BNP	心臓に負担がかかると血液中に分泌されるホルモンで、高値ほど心臓に負担がかかっているといえます。
心臓超音波検査		心臓の大きさ・形・心臓の壁の厚さ・動き・心臓弁の状態・血液が流れる速度・向きがわかります。心肥大・心筋梗塞・弁膜症などを調べます。
心電図検査		心臓の動きを波形にして調べます。不整脈・心筋梗塞・心肥大などがわかります。
胃レントゲン検査		食道・胃・十二指腸の状態を調べます。逆流性食道炎・胃炎・潰瘍・腫瘍など。
胃がんハイリスク検査		ペプシノーゲン検査とピロリ菌検査を併せて実施する事により胃癌や潰瘍などの発生リスクを知る事が出来ます。
腹部超音波検査		胆嚢・肝臓・腎臓・脾臓などに超音波をあてて、肝臓での脂肪の蓄積状態・腫瘍・結石・嚢胞など腹部充実性臓器の異常を調べます。
婦人科検査	内診・超音波	内診により、子宮や卵巣の大きさや腔などの状態を診察します。 子宮筋腫や卵巣腫瘍・頸管ポリープが発見されることもあります。
	腔細胞診	子宮頸癌の発生しやすい部位をこすりとって細胞を調べます。
マンモグラフィー		乳房を上下或いは左右に挟んで乳腺をX線撮影する検査です。触診ではわからない小さな石灰化を有し、腫瘍を形成しない乳癌の発見にも有効な検査です。
乳房超音波検査		しこりをつくる癌に対して有効です。30代までの若い方は一般的に乳腺組織が多いので、超音波検査が向いています。妊娠中でも検査可能です。
頭部MRI検査		脳の断面をつくり、脳梗塞・脳出血・脳腫瘍などを調べます。
MRA		脳と首の血管を写し出し、脳動脈瘤・血管の動脈硬化などを調べます。
頸動脈超音波検査		超音波をもちい首の血管の動脈硬化を調べることで、全身の動脈硬化の状態を推測します。
ABI		四肢の血圧を同時に測定することで、動脈硬化(血管の老化など)の程度を調べます。下肢動脈の硬さや詰まりの程度が推定できます。
動脈硬化(FMD)検査		超音波装置を使い「血管内皮機能」を調べます。上腕部を5分間駆血後、血管の拡張率(血管の柔らかさ)を計算し、6%以上が正常値の目安で5%以下で内皮機能障害が疑われます。
脈波検査		指の毛細血管の拍動波形から、血管の柔らかさ(血管年齢)を調べます。
血液流動性検査		血液の流れやすさ(サラサラ度)を調べます。